

～ 明けましておめでとうございます ～

Feliz Año Nuevo!

かるがも館

新春フラメンコショー プログラム

2024年1月14日 13:30開場 14:00開演

かるがも館 2階ホール

1部

オープニング

ルンバ (カンテソロ)

19世紀のキューバが発祥。黒人たちによるダンス音楽として生まれたがその後スペインに渡りフラメンコに取り入れられた。アップテンポで軽快なリズムが特徴。

ガロティン

コルドベスと呼ばれる帽子を使うのが特徴。女性らしさと遊び心が垣間見られる踊りで、スペイン北部のアストリア地方が発祥と言われる。「ガロティン」とは麦を脱穀する際に使用する道具の名称などが語源と言われている。

タンゴ・デ・マラガ

タンゴとついでにアルゼンチンタンゴとは異なる。フラメンコのタンゴはもともと歌だけの曲だったが現在では踊りの曲としても人気を得ている。またフラメンコの曲種には地方の名がつくものがあり「タンゴ・デ・マラガ」もその一つ（直訳すると「マラガ地方のタンゴ」）。

2部

シギリージャ (ギターソロ)

フラメンコの中でも最も古くから伝わる曲種であり最も重厚な曲といわれる。社会の底辺で暮らし多くの迫害を受けながら生活してきたロマ族（ジプシー）の悲しみ、怒り、嘆きの歌。歌い手にとっては難易度の高い曲のひとつとされている。今回はギターソロで演奏する。

グアヒーラ

スペイン移民者がキューバの地で付けられた呼び名グアヒーロ（白人の農民者）からきている。キューバの大衆歌であったものがタンゴ・ガディターノ（カディスのタンゴ）の新しいリズムのフラメンコのなかに取りこまれて生まれた曲。

アレグリアス

ALEGRIA（喜び）が由来。躍動感に溢れた明るい曲調だがそこには、人生における孤独や苦しみ、嘆きなどを突き抜けた先にある「喜び」が表現されている。

フィン・デ・フィエスタ

「宴の終わり」の意。フラメンコショーの最後に踊られる定番。通常プレリアのリズムで踊られる。

※曲目及び曲順は変更になる場合があります。ご了承ください。



はじめに



フラメンコとはスペインの南部アンダルシア地方を中心に伝わる民族音楽、舞台芸術です。2010年にはユネスコによりスペインの無形文化遺産に登録されました。スペインが位置するイベリア半島はアラブ、ユダヤ、ローマ帝国など様々な文化が影響してきた歴史があり、フラメンコもまた、それらの文化の影響を多く受けて発展してきました。フラメンコのルーツは定かではありませんが、およそ600年前に北インドから流浪してきたヒターノまたはロマと呼ばれる人々の音楽がルーツの一つとされています。彼らは社会の底辺で暮らし、多くの迫害を受けながら生活してきました。苦しみや嘆き、そしてその奥底から湧き上がる喜び・・・懸命に生きる人々の心を映し出してきた音楽が、様々な文化と融合して出来た芸術、それがフラメンコです。

日本ではフラメンコを「女性の習い事」とイメージする方も多いかもしれませんが。実際に観ていただくことで、華やかなだけではないフラメンコの力強さ、迫力そして心揺さぶられる感動を体験して頂けるとと思います。今回も第一線で活躍しているプロアーティストに出演して頂けることになりました。年明けにふさわしい新春フラメンコショーを存分にお楽しみください。

出演者紹介

篠田三枝
(踊り)

1998年スペイン各地に行き、99年スペイングラナダに短期留学。その後も、多くのスペイン人舞踊家に師事。04年、日本フラメンコ協会第13回新人公演バイレソロ部門奨励賞受賞。07年、スペイン舞踊マルワ財団主催CAFフラメンコ舞踊コンクール入賞。10年「マヌエラカラスコとGranarte flamenco」出演。ラファエラカンパージョ、ラファエルデカルメン、ルイスデルイス、エルチョロらと共演。現在東京、神奈川、香川など各地で教授活動にも力をいれている。

土方憲人
(踊り)

1987年東京出身。土方憲人フラメンコ教室 ESTUDIO FUTURO主宰。第24回新人公演バイレソロ部門奨励賞。第8回ヘレス国際コンクールフィグラ部門ファイナリスト、ソリスタプロフェッショナルアダルト部門第3位。審査員長マヌエルベタンソ特別賞。

ダニエル・リコ
(歌)

母がコロンビア人で、父が日本人。コロンビアの首都ボゴタで生まれ。日本育ちなのでほぼ日本人であるものの、南米の血をひく音楽のノリは完璧なラテン人。現在フラメンコの熱いカンタオール（歌手）として全国各地のライブ、イベントなどで日々飛び回っている。またギターをも弾きこなすマルチな存在で、とりわけルンバが得意。人は彼のルンバを「ダニエルンバ」と呼ぶ。2016年5月に自身のルンバファーストアルバム『南国パラダイス』をリリース。

盛植俊介
(ギター)

パコ・デ・ルシア、ビセンテ・アミーゴを聴き衝撃を受け、フラメンコギターを始める。様々なアーティストに師事し、スペインに三度の留学を果たす。現在はロマン・ビセンティ氏に師事。フラメンコを様々な視点で勉強、追求し、独自のフラメンコスタイルを磨きつつ、後進の指導も開始。2017年 Benito Garcia スペイン・コルドバ公演に出演。2019年及び2022年に自身のリサイタルを開催。現在「浅草橋バリーカ」ブッキング兼レギュラー出演。多摩平フラメンコギター教室講師。地域向けにフラメンコの周知活動も精力的に行っている。

